

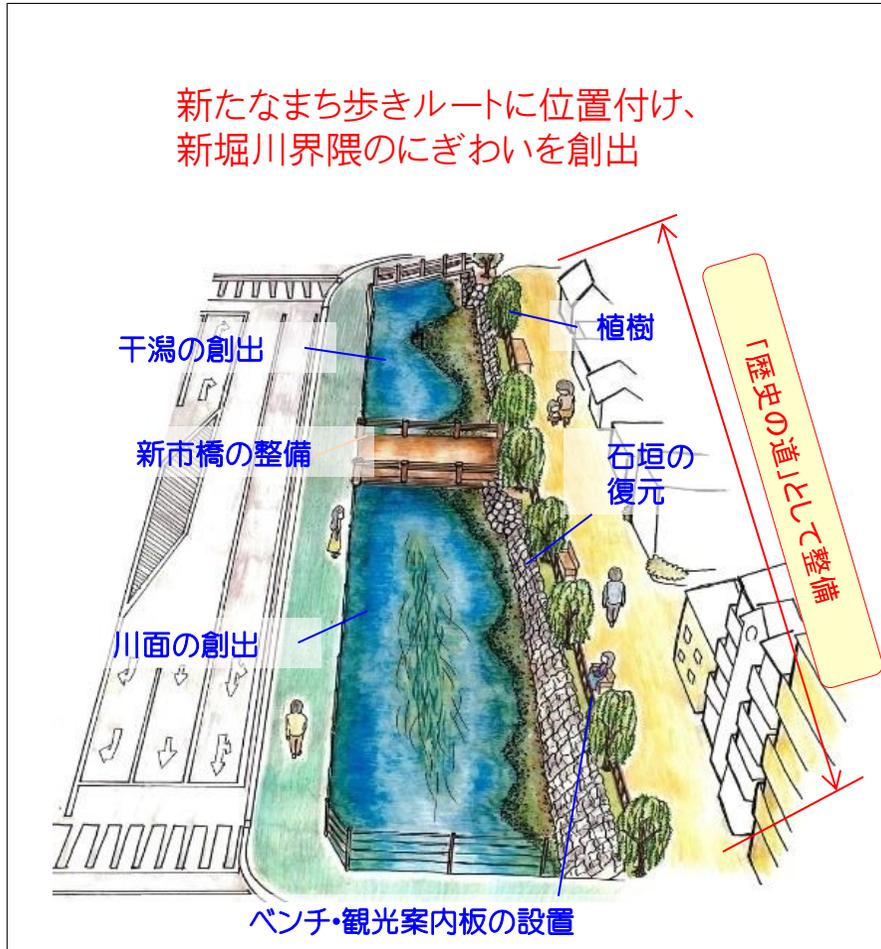
### (3) まちづくり



高知市が進める「歴史と文化を感じさせる風情あるまちづくり」に寄与します。

～ 高知市の都市計画マスタープランや中心市街地活性化計画との連携を図ります。～

～ 歴史案内板や希少種の説明板の設置、新たなまち歩き観光コースの設定などにより、にぎわいの創出を図ります。～



## 歴史の道の整備イメージ

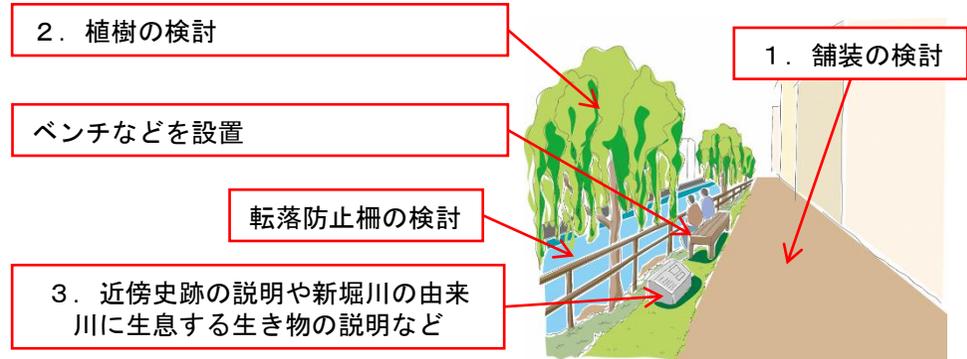
### 2. 植樹の検討

ベンチなどを設置

転落防止柵の検討

3. 近傍史跡の説明や新堀川の由来  
川に生息する生き物の説明など

### 1. 舗装の検討



## 江戸時代の堀や希少動植物が生息等する 自然環境を観光資源として活用

- 新堀川東側の市道を歴史の道として整備
- 歴史案内板や希少動植物の説明板を設置
- 新市橋の江戸時代風の整備の検討
- 石垣の保存、復元、再生



## 提案する舗装の種類

- 「歴史の道」としての整備を目指す道の舗装の種類については、平成29年11月に開催した「第3回はりまや町一宮線(はりまや工区)まちづくり協議会」において以下の4案の提案を行っている。
- 「歴史の道」として整備を行う市道は、車両の乗り入れがあるが、下表にあげる脱色アスファルト舗装以外は自動車荷重に対応していない。
- また、江戸時代に描かれた絵図を確認すると、路面は石畳など特殊なものでなく、土のようであった。
- なお、平成13年度に開催された3つの検討委員会において、歩道舗装は、透水性脱色アスファルト舗装が提案されている。

	石畳	パネル・タイル	インターロッキングブロック	脱色アスファルト舗装
イメージ写真				
写真撮影箇所	奈良県：東大寺大仏殿周辺	高知市帯屋町アーケード内	県道36号：高知市六泉寺	高知市横浜新町ロータリー
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦な石板ブロックを使用</li> <li>歴史的情緒とバリアフリーの両立を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦なパネルをつないだもの</li> <li>美観を持たせた上で、バリアフリーに対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車で買物をする際、卵が割れない歩道として採用された構造</li> <li>景観に優れバリアフリーに対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去のワークショップにおいて提案</li> <li>土の色をそのまま見られ、バリアフリーに対応</li> </ul>
自動車荷重への対応	× 石板の破損や局所的な沈みなどが発生し平坦性の確保が困難	△ 石畳みと同様に平坦性を長期間確保することが困難	× 自動車荷重に耐えられない	○ 対応可能
歩行者の安全性等	△ 降雨時にはスリップする危険性	× 降雨時のスリップの危険性が案の中で最も高い	△ ブロック間に小刻みな段差が生じ、車椅子の走行時に支障となる恐れ	○ 舗装の種類によっては水たまりがほとんど発生せず、滑りに強い

土色を再現する「脱色アスファルト舗装」を提案

# 2. 植樹の検討

種類の提案

- 過去のワークショップにおいて選定されたハマボウ、桜井の由来である桜、対岸で植えられていたマツ、船着き場を連想させる柳、芝による緑化を比較する。
- また、江戸時代に描かれた絵図では、新堀川の東側は土手となっている。

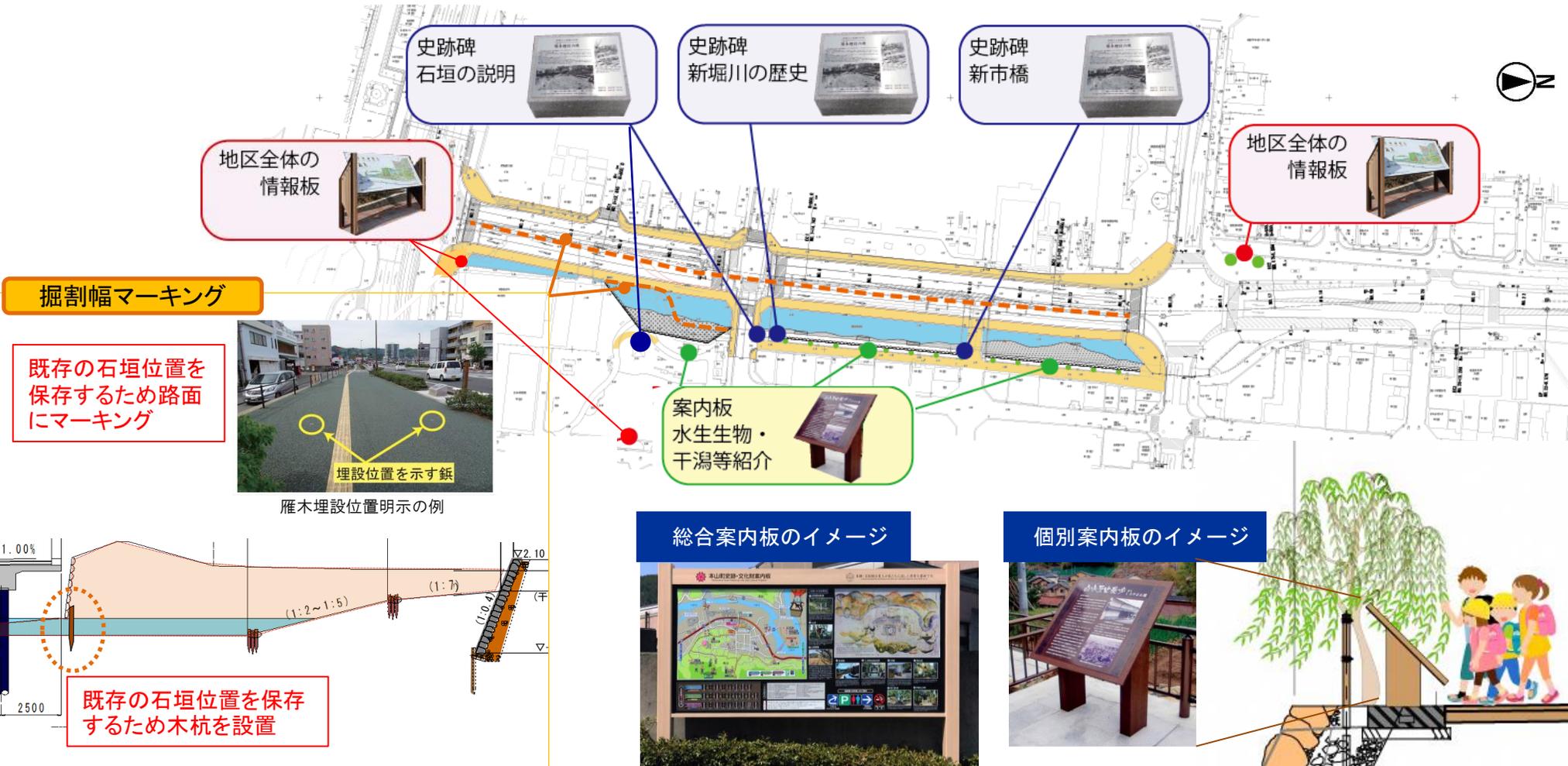
	芝	ハマボウ	桜	松	柳
イメージ写真					
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊な植物を植えず、オープンスペースとして幅広く活用する為、あえて中高木を植えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シオマネキが生息するような海岸の入江などに生育</li> <li>H13に開催のワークショップにおいて選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堀川に植樹されており、第1回パブリックコメントにおいて桜の植樹を望む意見あり</li> <li>「桜井」の名は、井戸の側に桜の木があったことに由来</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の絵巻等において鏡川南側や、新堀川西岸に見られる。</li> <li>※歴史の道となる東岸は松が描かれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>船着き場を連想させることから、昔の情緒を感じさせることができる。</li> </ul>
石垣等との共存	<ul style="list-style-type: none"> <li>根が浅いため石垣への影響は殆どないものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共存可能と考えられる。(牧野植物園に意見を聴いている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根は浅いが、舗装への影響(根上がり)が問題となる場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根が深いため、石垣等への影響が懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根の範囲が広く石垣や舗装への影響が懸念</li> </ul>
市道への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路側に伸びた枝は選定する必要がある。(車両通行の障害)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路側に伸びた枝は選定する必要がある。(車両通行の障害)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路側に伸びた枝は選定する必要がある。(車両通行の障害)</li> </ul>
維持管理上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成不良を起こすと土面が現れる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>害虫に弱い(土佐道路で発生するアメリカシロヒトリなど)</li> <li>枝折れ等により腐りやすい</li> <li>春と秋に掃除等を密に行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松食い虫に代表されるように予防対策が必要</li> <li>落葉樹ではないため、桜と比べて掃除等の頻度は少ないが、種等の処理などが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長が早く、年に2度の選定などにより樹形を整える必要がある。</li> <li>落葉樹であるため、秋には掃除等を密に行う必要がある。</li> </ul>

石垣に影響しない芝を提案。あわせて、桜井付近に由来となった桜を1本程度植樹する。

# 3. 希少動植物や史跡等の案内方法（1）

## 案内施設の整備イメージ

- 新堀川の玄関口となる電車通り交差点、はりまや橋小学校北側の幅広歩道、溜まり場となる横堀公園に、総合案内情報板を設置する。
- 横堀公園や歴史の道沿いに、新堀川界隈の歴史や、新堀川に棲む希少種についての情報を盛り込んだより詳細な個別案内板を設置する。
- 掘割の形状が確認できるよう、路面へのマーキングや新堀川の中へ木杭を設置する。
- 現在の市道を新堀川の石垣や水辺をゆっくり眺めることができるよう「歴史の道」として整備する。

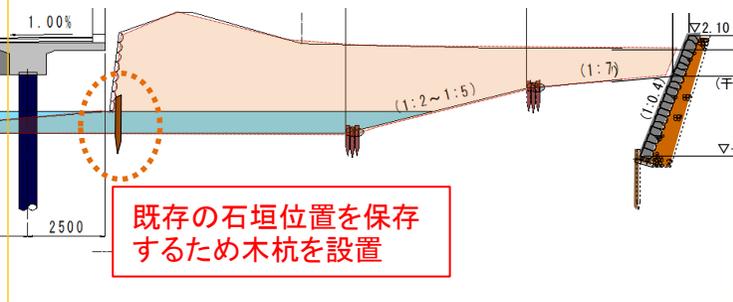


### 掘割幅マーキング

既存の石垣位置を保存するため路面にマーキング



雁木埋設位置明示の例

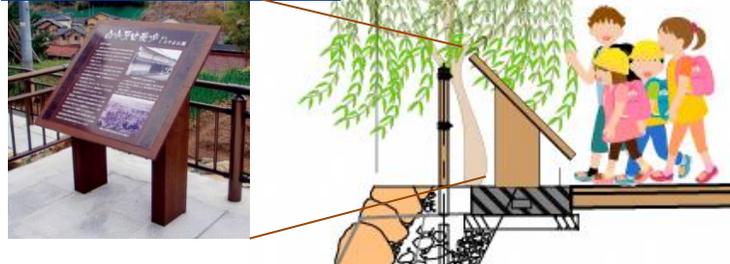


既存の石垣位置を保存するため木杭を設置

### 総合案内板のイメージ



### 個別案内板のイメージ



## 総合案内板のイメージ

高知城郭における新堀川界隈の役割

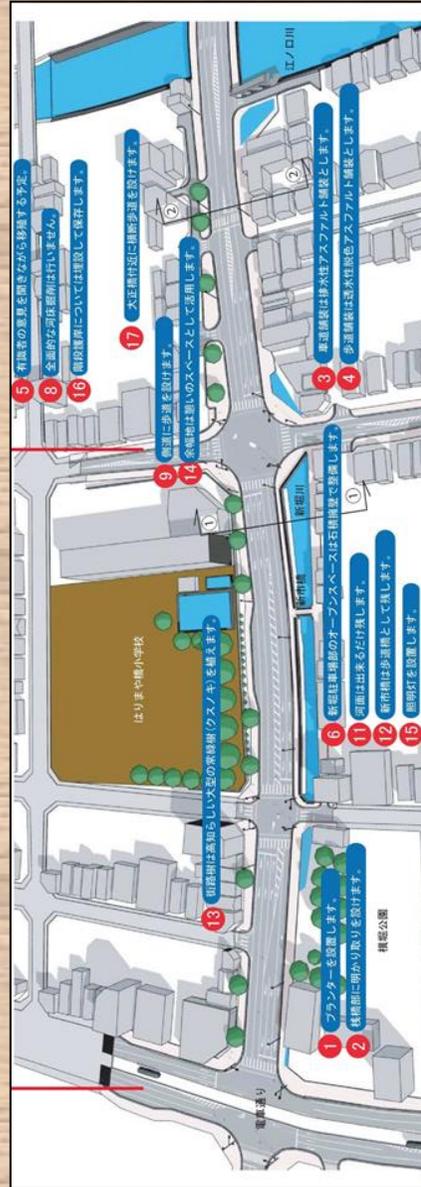
高知城郭の絵図

新堀川界隈（下町）の形成

下町の町名入り絵図  
下町時代の町名の由来

新堀川界隈の史跡等

史跡の紹介



新堀川の歴史

江戸時代における新堀川の役割

新堀川の変遷

絵図や写真

新堀川に生息・生育する希少野生動植物

写真や解説

## 個別案内板のイメージ (希少動植物の生態)

### 新堀川に生息する希少動植物

#### トビハゼ (スズキ目ハゼ科) 【どのような魚なの?】



トビハゼはスズキ目ハゼ科に属する魚。干潟に生息しており、潮が満ちてくるとそれから逃げるように水面を飛び跳ねる様子が名前の由来となっています。

だいたい寿命は4年ほどで、体長は大きいものでは10cmくらいになります。

#### 【どうして飛ぶの?】・・・危険から身を守ったり、メスに求愛するため

3月から8月はトビハゼにとって恋の季節です。オスは泥に穴を掘って縄張りを作った後、メスに来てもらうためにとびはねてアピールします。また、危険が迫ると、身を守るために飛びはねながら、すばやく巣穴に逃げこみます。トビハゼの体はとても軽く、全身をばねのように使って飛びはねます。

#### 【どのようなところに住んでいるの?】・・・沖縄から東京の間に住んでいます。

潮の満ち引きによって陸地と水面になることを繰り返す干潟と呼ばれる所で特に泥の多い場所を好んで住んでいます。

#### 【どの季節でも見られるの?】・・・冬以外で見られます。

3月～11月によく見られます。冬の間は巣穴に潜って冬眠します。

#### 【何を食べているの?】

泥の上をはいながらカニやゴカイなどの小動物を食べます。

#### 【魚なのに水の中にいなくて大丈夫なの?】

トビハゼは、えら呼吸だけでなく、皮膚呼吸もできるため、空気中で生活ができます。

#### 【空気中で息ができるのに水辺にいるのはなぜ?】

トビハゼは、皮膚の乾燥が天敵なので泥の上では転がって、尾は水に浸けて乾燥しないようにしていますので、水から遠く離れることができません。



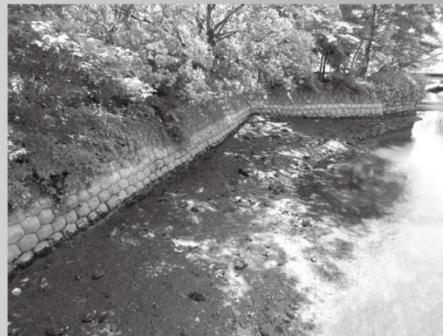
- 整備済みの区間にあった雁木などは、「新堀川と遺構の記憶」として、金属プレートと石台で碑が設置されている。
- 現在の横堀公園の石垣についての個別案内板を横堀公園に設置する。

## 個別案内板のイメージ（横堀公園の石垣）

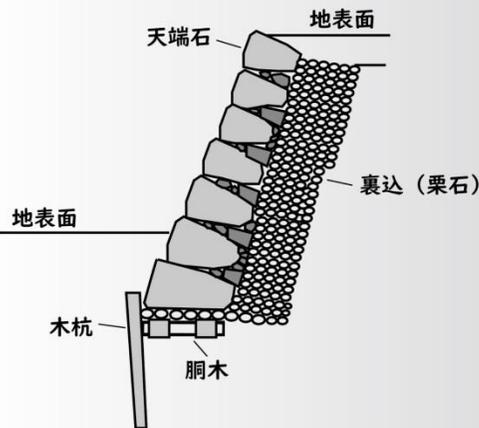
### 新堀の歴史

### 横堀公園の石垣（亀甲積）

- 【由来】 その名の通り、亀甲形に岩を整え組んでいる形が由来とされています。
- 【特徴】 四角の岩を組むより重量が均等にかかることから、頑丈で崩れにくいといわれています。
- 【使われている場所】
  - ・高知では、昔あった堀川などでよく見られました。
  - ・江戸幕府を開いた徳川家康の居城（駿府城）の石垣にも一部使われています。



### 石垣の構造



- 【根石】 石垣の一番下の石。横堀公園の石垣は根石がしっかりと地中に埋まっています。
- 【天端石】 石垣の一番上の石のことをいいます。
- 【裏込】 石垣の裏側に積み込まれる小石（栗石と呼ばれることもあります）。10～30cmくらいの割った小石が多く用いられます。石垣内部の排水を円滑に行う役目を持っており、この裏込が不十分だと、大雨の時など石垣が崩れることがあります。
- 【胴木】 地盤の強弱や石の重さによって、根石の沈下がバラバラに発生すると石垣全体の崩壊につながるため、この不等沈下をふせぐために根石の下に敷かれた柱のことをいいます。二本の材木を並べて、その間を梯子状に結合させたものが多く使われています。土中・水中の腐食に強く、大木が得やすい松が用いられることが多い。山城など地盤が磐石な場所に建てられた石垣には使われていません。
- 【木杭】 胴木が動くことを防ぐためのつかえ棒。



整備済区間に設置されている雁木埋設の碑